

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102434		
法人名	丸正篠田薬品株式会社		
事業所名	グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」		
所在地	岐阜県岐阜市都通1丁目18番地		
自己評価作成日	平成23年8月9日	評価結果市町村受理日	平成23年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/infomat/onPubli.c.do?JCD=2170102434&SCD=320&POD=21
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、ご自宅と同じようにゆったりと居心地よく暮らしていただく「お家」です。また、専門のスタッフがアットホームな雰囲気とこまやかな安心ケアで安らぎの住生活をお約束します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階に薬局がある5階建てビルの2階、3階部分を改修した、街の中の事業所である。経験豊かな職員が多く、職員も家族の一員であることを意識し、利用者や家族が遠慮なく、何でも言える、居心地よい事業所を目標に、毎日支援している。散歩は日常的にあり、利用者の意向や想いを大切にして、馴染みの人に会い、行きたいところに出掛けられるように支援をしている。食事は食べなれた味や食材を使って提供し、食べる楽しみを工夫している。かかりつけ医を大切に、協力医と共に連携して、医療を継続して受けながら終末を迎えるまで生活の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、日常的に職員に話しており、常時職員は、理念を念頭において仕事に従事している。また、わかりやすいように運営理念を掲示している。	開設時、代表者が作成した「人間の尊厳を大切に、家庭的な雰囲気を利用者の介護に当る」という理念は、会議等を通じて職員に周知されているが、どのように事業所でそれを具体的にしていかが明確でない。	全職員で話し合い事業所の理念を作り上げることで、よりわかりやすく共有できる。また、理念に基づき実践しやすくするための具体的方策や検証も望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りに参加したり、地域の高齢者予防教室に参加したりしている。	運動会、夏祭り、高齢者予防教室などに参加している。街路樹の落ち葉の掃除をし、散歩時には地域の人達に積極的に話しかけ、交流を深めている。今年のクリスマス会に参加してもらえるよう今から準備もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会、社協での民生委員を含めた会議に出席し、町内会等でも絶えず、説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には必ず出席し、そこでの意見を報告し、サービスに取り入れている。	平日と土日に会議を交互に開催している。土日は家族の参加のみ、平日は行政の参加のみ、地域住民は時々参加にとどまっている。関係者相互の調整が付かず本来の会議になっていない。	運営推進会議の本来の目的と意義を確認して、義務付けられている構成員を含む関係者全員の参加による会議となるよう改善が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者間のネットワークを通じて働きかけている。	行政担当者は時々事業所を訪問している。しかし、事業所の事務担当者は市担当者と接しているが、事務的な用件にとどまっている。管理者が直接出向いて情報交換等することは少ない。	管理者は、市の担当者と、どのように協力関係が紡げるか検討していただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部屋には、鍵をかけておらず、自由に出入りして頂いている。	ベッドから転落の恐れのある利用者には布団に変えたり、車椅子からずり落ちる利用者には、見守りや姿勢保持の環境を整え、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法を理解しており、グループホーム内では、決してそのようなことがあってはならないことを十分に理解して注意を払っている。		

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、これらの制度を学び、必要に応じて、利用者様が活用できるようにスタッフ会議等で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、全て書面に記載し、その上で十分な説明を行い、理解され、納得された者としてしか契約しない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者様の顔色をうかがいながら、要望を聞いたり、感じ取るなどしてスタッフは行動している。また、ご意見箱を設置して自由に意見をいただけるようにしている。	毎月発行の「たより」では、事業所のお知らせと利用者の様子を知らせている。家族の訪問時には「訪問・外出ノート」に、意見・要望など何でも書いてもらったり、電話でも尋ねている。また、運営推進会議からも意見を収集している。外出時には積極的に利用者の本音を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上おこなわれているカンファレンス時以外にも、随時どんな意見も提案も聞いている。	職員の意見や提案などは、お互い、言いやすい関係にある。記録の書式の簡素化、献立表の作成、死角になり見守りがしにくい居室への対応など様々な提案を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ全員を家族のように思っており、常にスタッフ一人一人の心境にまで気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修参加を重視している。職員一人一人は、管理者から指導や助言を受け、資料の提供などを受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の参加等で、交流を深め、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、アセスメントを行っている。本人の話すことや表情を見過ごさないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が心配されることなく、利用者様に利用してもらえるように、どんな意見にも耳を傾け、話し合い、納得されるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族以外にも医師やケアマネ、相談員を交えて、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に声かけをし、一緒に散歩にでかけたりして家族のように接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開いたり、お楽しみ会に参加して頂き、交流の場を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相手の都合に配慮しながら、自由に電話連絡ができるし、特に時間拘束も無いので、自由に外出されている。	家族との外出を推奨して、馴染みの床屋、美容院、喫茶店などとの関係維持を図っている。手紙を書いたり、電話を掛けることを手伝って、馴染みの人達との交流の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、インストラクターによる物作りや遊びで、助け合い、触れ合える場を作っている。		

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に相談にのっており、ご家族にあ感謝されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てにおいて、強制することなく、自由に暮らしていただいている。意思表示の困難な方は、顔色をうかがって気持ちをくみ取っている。	月に一回は一人ひとりの居室で、困っていること、思いなどを尋ねている。葉が欲しい、洋服が欲しい、図書館に行きたいなどの要求の把握に努めている。思いを言葉であらわせない利用者には、表情や声かけで意向の確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個室には、使い慣れたベットやタンスなどの家具を持ち込むなどして、あまり生活環境を変えない様にして生活していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者様と同じ空間で過ごすため、常に一人一人の様子を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間ごとの見直しをしている。それ以外にも状況の変化に素早く対応して、計画を練り直している。	定期的に個別の介護日報や、家族の要望・職員の意見をもとにモニタリングし、ケア会議で検討して介護計画を作成している。容態変化時にはその都度見直し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報により、行動・特記事項・連絡事項を記録している。また、一人一人に対して、チェック表に排泄・バイタル・食事量・水分量などを詳しく記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の求めている事を把握し、これによってアセスメントを行い、課題を明らかにしてから、支援やサービスに取り組んでいる。		

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署・警察署・交番に十分に働きかけ、見守りの協力を得ている。職員も地域の人々に溶け込んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前よりかかりつけ医のある方は、引き続き受診されている。特に希望のない方に対しては、提携医療機関にお願いしている。	一人ひとりのかかりつけ医の受診を継続している。かかりつけ医、協力医の双方の往診を受け、その人らしく安心できる生活を支援している。管理者は利用者の状況や情報を医師と家族に伝えるなど、相互に連携を図りながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職の配置がないため、かかりつけ医に相談、受診し、一人一人の健康管理につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者が出向いたり、電話等により話し合いをして、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師やご家族と十分に話し合い、できる限りの情報提供を行い、職員全員で支援している。	入居時に看取指針を家族に説明し、関係者で共有している。かかりつけ医や協力医の往診により、きめ細かな指示を受け、その時々、家族の意向を確認しながら対応している。家族が宿泊し看取った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議やカンファレンスの中で訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者は、職員が火災時に避難誘導ができるよう、教育し訓練を行っている。	定例の訓練と、夜間を想定した避難訓練を実施している。両隣の住民には、日頃から災害時の協力をお願いしており、職員は地域の訓練にも参加している。しかし地域住民の協力を得た避難訓練に至っていない。自治会との協力体制はこれからの課題である。	災害時の地域との協力体制の構築を早急に検討し、合同で避難訓練等の実現が望まれる。

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、時には意見を仰ぐようにしている。 入浴や排泄の誘導などには、特にプライバシーに配慮して行っている。	利用者の生活歴などの個人情報の取り扱いには、守秘義務を厳守している。些細なトラブルにも人格を尊重した対応をしている。排泄や入浴にも羞恥心に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と一緒に買い物に出かけ、ご自分で品物を選んで、支払いをしていただいている。(可能な方の場合) 好きなテレビ番組を選んで、チャンネルを合わせて見て頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムの中で、利用者様が自分のペースで暮らせるように自由にしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様は、それぞれ好みの髪型、服装をしており、各々おしゃれを楽しんでいる。 理美容院の利用を希望される時は、職員が付き添って行く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は必ず利用者様の方を向いて、笑顔で食事の様子を見守っている。 利用者様と一緒に食材を買いに行ったり、可能な限り、一緒に調理をしたり、後片付けをしている。	利用者の嗜好に合ったおかず・味を大切にしている。例え、嫌いな食材があっても工夫し、栄養に留意している。職員も一緒に食卓を囲み、見守りや介助をしながら、明るい話題を提供している。配膳や下膳も自らすすんでされる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、食事内容、水分量をチェックし、記入している。 また、一人一人の状態に合わせて、細かく刻んだり、柔らかく煮たりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常に食後のうがい、歯磨きを支援している。 それ以外にも、朝晩のケアも実施している。		

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入から、一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや見守りによりできる限りオムツを使わず、トイレへと誘導している。	トイレでの排泄を心がけ、オムツをしない支援をしている。昼間は、排泄チェック表を見てトイレ誘導することで、パットがとれた利用者もいる。夜間も出来る限りトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食物繊維の多い野菜を多く取り入れた食事を提供している。また、水分量にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に、ご本人の体調とチェック表を確認し、入浴の可否を見極めている。入浴は週2回以上のペースとしているが、希望があれば随時入浴可能である。	入浴は週2、3回とし、希望があればいつでも可能としている。入浴剤を変えて温泉気分にしたり、菖蒲湯などの季節感を盛り込んだお湯にするなど、楽しい入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者様とは、他の利用者様に配慮しつつ、一緒に談話室でお話をしたり、ベットまで誘導し、落ち着いて眠りにつかれるまで見守りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	代表者が薬剤師であるため、常に薬の目的、副作用等がチェックされており、職員に指導されている。用法・容量が間違わない為にも、薬は全て一包化され、氏名と服用時が印字されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の後片付けや洗濯物を干したり、取り込んでたたんだり、自室の掃除をしたりとそれぞれの場合で役割作りがされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、食堂にて、一緒にお茶を飲んだり、買い物に行ったりと希望があれば職員と一緒にでかけている。	雨天以外は毎日外出している。体力に合わせて無理のない距離を散歩し、途中で休憩を挟み、地域住民と話したりしている。月に1回の買物ツアーがあり、行き先は希望に合わせている。受診の帰りには、馴染みの喫茶店に立ち寄るなどしている。	

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が可能な利用者様は自分でを行い、不可能な利用者様は、その都度ご本人のお預り金からお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話機が設置されており、利用者様は好きなときに使う事ができるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物、室内全て家庭的な雰囲気を作っている。 居間には、ゆったりとしたソファが設置され、くつろぎやすくなっている。 ビルの階段には、季節を感じる飾り物を飾っている。	共用空間は少ないが、壁や家具の配置を工夫して危険のない空間を作っている。居間には長椅子を置き、利用者同士が話したり、レクリエーションなど一緒に楽しめるよう居心地の良い空間を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の部屋には、他の利用者様が無断で入室できない規則になっている。 また、気の合った利用者様同士と一緒に過ごせるようにリビングを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋には、今までにご本人が使用していた家具や生活用品が持ち込まれている。	パイプハンガーに季節の服、帽子、杖などを掛けている。位牌や新聞・雑誌を置いたり、床に布団を敷くなど、それぞれが居心地よい居室となっている。用品が多くなると動きにくくなるので、家族と一緒に季節ごとに整理して、暮らしやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個人部屋には、ご本人の顔写真を貼って、楽しく分かりやすく工夫がしてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102434		
法人名	丸正篠田薬品株式会社		
事業所名	グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」		
所在地	岐阜県岐阜市都通1丁目18番地		
自己評価作成日	平成23年8月9日	評価結果市町村受理日	平成23年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/inforati/onPublic.do?JCD=2170102434&SCD=320&PCD=21□□
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、日常的に職員に話しており、常時職員は、理念を念頭において仕事に従事している。また、わかりやすいように運営理念を掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りに参加したり、地域の高齢者予防教室に参加したりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102434&SCD=320&PCD=21 <input type="checkbox"/>	自治会、社協での民生委員を含めた会議に出席し、町内会等でも絶えず、説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には必ず出席し、そこでの意見を報告し、サービスに取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者間のネットワークを通じて働きかけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部屋には、鍵をかけておらず、自由に出入りして頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法を理解しており、グループホーム内では、決してそのようなことがあってはならないことを十分に理解して注意を払っている。		

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、これらの制度を学び、必要に応じて、利用者様が活用できるようにスタッフ会議等で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、全て書面に記載し、その上で十分な説明を行い、理解され、納得された者とししか契約しない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者様の顔をうかがいながら、要望を聞いたり、感じ取るなどしてスタッフは行動している。また、ご意見箱を設置して自由に意見をいただけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上おこなわれているカンファレンス時以外にも、随時どんな意見も提案も聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ全員を家族のように思っており、常にスタッフ一人一人の心境にまで気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修参加を重視している。職員一人一人は、管理者から指導や助言を受け、資料の提供などを受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の参加等で、交流を深め、意見交換をしている。		

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、アセスメントを行っている。本人の話すことや表情を見過ごさないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が心配されることなく、利用者様に利用してもらえるように、どんな意見にも耳を傾け、話し合い、納得されるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族以外にも医師やケアマネ、相談員を交えて、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に声かけをし、一緒に散歩にでかけたりして家族のように接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開いたり、お楽しみ会に参加して頂き、交流の場を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相手の都合に配慮しながら、自由に電話連絡ができるし、特に時間拘束も無いので、自由に外出されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、インストラクターによる物作りや遊びで、助け合い、触れ合える場を作っている。		

グループホーム「櫛並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に相談にのっており、ご家族にあ感謝されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てにおいて、強制することなく、自由に暮らしていただいている。意思表示の困難な方は、顔色をうかがって気持ちをくみ取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個室には、使い慣れたベットやタンスなどの家具を持ち込むなどして、あまり生活環境を変えない様にして生活していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者様と同じ空間で過ごすため、常に一人一人の様子を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間ごとの見直しをしている。それ以外にも状況の変化に素早く対応して、計画を練り直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報により、行動・特記事項・連絡事項を記録している。また、一人一人に対して、チェック表に排泄・バイタル・食事量・水分量などを詳しく記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の求めている事を把握し、これによってアセスメントを行い、課題を明らかにしてから、支援やサービスに取り組んでいる。		

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署・警察署・交番に十分に働きかけ、見守りの協力を得ている。職員も地域の人々に溶け込んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前よりかかりつけ医のある方は、引き続き受診されている。特に希望のない方に対しては、提携医療機関にお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職の配置がないため、かかりつけ医に相談、受診し、一人一人の健康管理につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者が出向いたり、電話等により話し合いをして、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師やご家族と十分に話し合い、できる限りの情報提供を行い、職員全員で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議やカンファレンスの中で訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者は、職員が火災時に避難誘導ができるよう、教育し訓練を行っている。		

グループホーム「樺並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、時には意見を仰ぐようにしている。 入浴や排泄の誘導などには、特にプライバシーに配慮して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と一緒に買い物に出かけ、ご自分で品物を選んで、支払いをしていただいている。(可能な方の場合) 好きなテレビ番組を選んで、チャンネルを合わせて見て頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムの中で、利用者様が自分のペースで暮らせるように自由にしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様は、それぞれ好みの髪型、服装をしており、各々おしゃれを楽しんでいる。 理美容院の利用を希望される時は、職員が付き添って行く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は必ず利用者様の方を向いて、笑顔で食事の様子を見守っている。 利用者様と一緒に食材を買いに行ったり、可能な限り、一緒に調理をしたり、後片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、食事内容、水分量をチェックし、記入している。 また、一人一人の状態に合わせて、細かく刻んだり、柔らかく煮たりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常に食後のうがい、歯磨きを支援している。 それ以外にも、朝晩のケアも実施している。		

グループホーム「榊並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入から、一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや見守りによりできる限りオムツを使わず、トイレへと誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食物繊維の多い野菜を多く取り入れた食事を提供している。 また、水分量にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に、ご本人の体調とチェック表を確認し、入浴の可否を見極めている。 入浴は週2回以上のペースとしているが、希望があれば随時入浴可能である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者様とは、他の利用者様に配慮しつつ、一緒に談話室でお話をしたり、ベットまで誘導し、落ち着いて眠りにつかれるまで見守りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	代表者が薬剤師であるため、常に薬の目的、副作用等がチェックされており、職員に指導されている。用法・容量が間違わない為にも、薬は全て一包化され、氏名と服用時が印字されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の後片付けや洗濯物を干したり、取り込んでたたんだり、自室の掃除をしたりとそれぞれの場合で役割作りがされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、食堂にて、一緒にお茶を飲んだり、買い物に行ったりと希望があれば職員と一緒にでかけている。		

グループホーム「櫛並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が可能な利用者様は自分でを行い、不可能な利用者様は、その都度ご本人のお預り金からお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話機が設置されており、利用者様は好きなときに使う事ができるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物、室内全て家庭的な雰囲気を作っている。 居間には、ゆったりとしたソファが設置され、くつろぎやすくなっている。 ビルの階段には、季節を感じる飾り物を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の部屋には、他の利用者様が無断で入室できない規則になっている。 また、気の合った利用者様同士と一緒に過ごせるようにリビングを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋には、今までにご本人が使用していた家具や生活用品が持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個人部屋には、ご本人の顔写真を貼って、楽しく分かりやすく工夫がしてある。		